



414
A 275



九州 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省

正 十一 年 四月
陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省

大 正 十 一 年 四 月
陸 軍 部 陸 軍 省

1753

一 自 分 多 明 治 十 年 一 月 東 京 へ 歸 郷 後 長 崎 へ 移 住 せ ば
内 務 省 補 給 係 へ 任 命 せ ば 同 年 七 月 鹿 兒 島 へ 着 任 其 後 同 氏 出 立 時 へ
大 隅 國 志 志 山 脚 へ 見 分 所 有 之 回 道 同 十 八 日 旗 地 へ 至 り 同 日
一 日 同 氏 へ 別 々 自 分 へ 寄 附 せ ば 同 年 十 二 月 志 志 山 へ 移 住 せ ば 同 年 十 五 日 歸 郷 同
廿 六 日 出 立 候 せ ば 然 然 同 年 九 日 夜 草 牟 田 村 陸 軍 火
藥 局 へ 焼 三 拾 名 計 押 入 中 火 藥 控 奪 せ ば 同 年 十 七 日 同

家 禄 百 三 十 六 石
正 賞 典 禄 八 百 石

大 山 備 良

五 十 二 年 五 月

鹿 兒 島 縣 志 志 族



三十日即届出に付一等警部中島健夫
并巡查ヲ悉く大井薬局吏貞ト立寄其場
ノ控標取廻サセタル後同夜十二時頃待写
大尉新 砲軍八百名ニ来リ今夜ニ大井薬
局へ賊徒大勢千人余ヲ押入殺ケ所ノ土
花ヲ打毀ケ多ク大井薬ヲ奪取タル由中
出取跡向依取付回人ハ中島健夫方
ニ至リ協議スヘキ旨ヲ若ハ自分ハ直チニ知
願ハ出ル途中人カ車及ヒ馬オテ 彈 薬運搬
スルヲ目撃シタル後出願ノ上右直ラシテ警部
十二三人 呼出サセシ折柄中島健夫出取
ニ自分ヲお席ニ追キ申出取ハ不容易儀
悉く取リ付私学校、、、、、、、、、、、、、、、、、、

堂儀ニ起リ立右彈薬掠奪ノ事ニ至リ其事
由ハ警部視聽ニ奉職セシ中原尚雄等二十
一名昨年十二月頃ヨリ陰ニ歸縣ニ私学校
生徒ヲ離間シ西郷ヲ暗殺シ熊本鎮臺ニ報
知シ機ニ投シ海陸軍ヲ以テ私学校堂ヲ慶
殺スヘシトノ密謀アル趣中原尚雄儀旧友谷
口東太ハ密話セシ趣探訪ノ者ヨリ申出右密謀
ノ儀相野利秋篠原國幹等承知スルヤ否西
郷隆成四ノ大隈高山ニ在ルニ屢出會謀議
ノ上旧兵隊ヲ率ヒ上京スルノ儀ニ相決シタルヨリ
私学堂ノ者共彈薬掠奪セシニ至レル段申
聞中島初警部ノ者共ハ中原以下ノ者
共捕縛方ニ從事スル趣ニテ退出致シ夫ヨリ

追々桐野兄弟は條原ホ出廳ニテ同様ノ談示
有之既ニ西郷ヲ迎ニモシ不口大率シテ出奔
スル趣ヲ以テ金穀等ノ用意致シ莫ルキハ
依頼ヲ受ケ西郷等兵ノ儀尤ト同意ス
ルヨリ経費金も當第一至急周旋セサルヲ
得スト存シ不取敢ニ自一口承運社負ニテ長
崎ニ相詰メ居ル平田豊治ハ自筆ヲ以テ
書面相認メ桐野源左衛門ナル者一持メ其文意
ハ今般西郷大将ヲ暗殺セント謀リシ者ヲ捕
獲シ右ノ付西郷等大率シテ不日上京ス依テ
彼是言ハレサル経費有之付當テハ野能
去ハ預ケ置メ金貳万円早ニ為事出且
社人金ノ纏テマリタル分モ都テ速ニ送ラルヘク

外ニ能キヨリ更ニ金三四万円借入是亦至急進
送云々全縣縣地ノ情况人氣ノ盛ニナルハ戊辰
年間ノ比ニ非ス細事ハ如申也如申ヨリ聞取リ可
矣与ラ認メ且別ニ畑中ノ一勢甚メ盛ニナリ西
郷大将モ殊ニ二三日以發程上京トお決セリ猶
該書ハ他見テ憚ル故宜ク注意アリタシト申
合ノ事モ同日海軍少佐菅野覺兵衛縣
廳ニ罷出昨報送船所ハ賊徒多人數兵器
ヲ携フ一押入り土藏數ヶ所ヲ打毀テ銃器
彈藥等掠奪セル趣ヲ以テ縣廳ノ係渡
ラ受ケ度若シ協ハサレハ能ク鎮台ハ掛人
可シトノ談示有之然ニ鎮台ニ懸合速ニ出兵
相成テハ不意ヲ付タルヘキト思惟シ依テ若

野少佐ハ精シ保護シ尽クスヘクニ在リ鎮台ヘ
ノ掛合ハ見合英々様程能ク應接ノ上事
帰シ尚跡ヲ取歸向ハ注意スヘキ事ノ書面
去山少属ハ持セキタル処其野ヨリ残り
火薬ハ都テ水ニ濺キタル故懸念ナキ事
復命セリ同日前歟彈藥掠奪ノ一件裁
判所ヨリ政府ヘ上申ノ趣傳承セシ故好廳
ヲモ沙由致サステハ他日不都合トモ考ヘ二等
属温谷國安ニ等属中村益志一申付同日
出帆ノ汽船ヨリ内務卿一御届致シ之然ル
ニ右書面ニ何者トモ不都合ニ礙海軍造船
所舎内ニ拮据ノ小銃彈藥數部ヲ奪取シ
ル般該所者負ヨリ急報ニ付連ニ其筋ニ申

付百方捜索中ニ之得共ニ取敢及ツ由ニト
モ惣々儀ハ不審ニ尤ニ以得共匆卒ノ際一等
属今存察ニハ惣々セタル事案ノ俟國安等
ハ亦儀ハ全ク粗漏ニ出タル儀ニテ決ニテ朝
廷ノ警備ヲ緩ニスル為内務卿等ハ偽リ以テ
ニ無クシテ同日ハ日曜休取ニ以得共第六課
長兼田長侍鑑由政直其他ノ者等一申付
廳中有今急豫備常備文部ニ委託金員
金大藏者預リ金ヲ初ノ悉皆取纏セ且第
六課出仕寺田盛之濱島新助ノ兩人ニ命ニ
宮崎支廳ニ於テモ同様有今全取纏多様
申付同所一モモ之申支兩廳ノ有全拮据三万
圓并造船所具火薬局ヨリ出納課一預リ

置タル金沙美幸沙子田ヲモあ東子同課ノ者ヨリ
進テ西郷等ハあ後ニ同テ西郷帰定ノ由ニテ
自分ニ面接致シ度私学校迄夫リ吳ハ可ク
与中越スニ應ニ同七日同所ニ罷越シ面會致
セシ處西郷曰同人此地ニ在ラハ生徒等ヲシ
テ彈藥掠奪等ノ暴動ニ為サシノサルヘシ
然ルニ今テ日ニ至リテハ致方多く中原等密
謀ノ儀モ人々大久保ヨリ川路ノ内意ニ出ス
モノニモあ違ハ付親カラ日兵隊ヲ率ヒ出京
シテ大久保初通ニ尋問スルニ決ニタル趣申
尚々自分分ヨリ沿道ノ府外鎮台等一
通知セサレハ不都合今モ難斗ト申向ケタル處
然ラハ右文案ニ進テあ廻ス故中原等ノ口

供ヲ添ハ政府ノ事也及ヒ各府外鎮台ヘノ通知
トモ知照ニテ取計吳ル可キトノ依頼ニ付兼談シ同
十一ノ前頭事等ノ文案催促トシテ今テ々々
私学校ヘモシタル交際ハふモ越時中原
等寸一名ノ口供ノ事西郷ヨリ今々購へ托シ押印ハ
跡ヨリ考サシムヘシトテ抄越シ一見致シ先モ前
前健考ヨリ兼リタル密謀ニモあモシ
於又信認シ右口供長ノ極少あり西郷
ノ上同ノ事々様ヲ以テ近知取ルモ西郷
出京云々ノ事々毎知照ニ付テ申付ルハ政
府ヘノ事々様ヲ以テ申付ルハ極少あり西郷
事々様ヨリ廻シ來ル事々様ノ供淨書ノ上專
使ニ十一名ヘ申付旅費等ハ知照ヨリあ後ニ

且第一山乞、於テ少部合ガク之從來山本難
キテハ誅敵部巡査ヘ信賴スヘキ旨モヤ
合ハクテ又出立致サセタリトハ合リ其趣ニ
ニ太行部ヲ煽動シ且勢揃ヲ示シ其爲ノ見
キシタリト報ケカレ之旨、之ヲ知ル事止山形
部ホハ派遣ニハモシクハ有テ以テ様々モ
大ニテハ艦艇若クハ海軍少輔林内
務少輔等ヨリモ、由テ少部ヲ以テ上陸
ノ義告起タリ然レニ私等檢ノ者若クハ
其也若兵ヲ以テ上陸六ヶ所存シ其自
分トシテ至リ而會致シ其趣ハ一處引取
顯鏡若クハ稗史等事及ヒ申原字
捕傳ノ由モヤハ下ノ事況ハ其由

尋受テ其由モヤヨリ西河ボニ同意ノ事、其
實情ハ少部ヲ程能クモモク、其河村ハ上
陸シテ西河ニ面會致シ其趣ハ一處引取
其旨西河ニ申達シタレバ面會ウル由トシテ
少部再々之旨難免、至リシ頃ハ生徒等少部
ニ系リ但鏡若クハ太行部ニ赴キテ其旨
談話モ少部ニモ傳ハ別レ同艦ニ出港シ
タリ同部ニ其旨申渡シタレバ其旨ニ
丈ケ石澤部太郎橋ニ赴キテ其旨持セ
送り越シ其旨太行部受テ其旨ハ早速長
崎ヘ四部傳テ其旨申渡シテ其旨五圓ノ自
分ヨリ其旨申渡シ其旨及ヒ其旨其旨其旨
文一紙ノ其旨申渡シ其旨其旨其旨其旨

正源寺の御遺品と送世品に封ノ供に多
く御遺品は其方よりノ御遺品一箇一箇に
口知申ル道に出たまはる道達に少清達に候
ノ御遺品信自云々少款を乃ち候申候
十分ニ都合申付甘う候様、此等十分利
お付お加し、あつて、末、東地、東
口加、東、東、東、東、東、東、東、東
出、出、出、出、出、出、出、出
小ハ、小ハ、小ハ、小ハ、小ハ、小ハ、小ハ、小ハ
此、此、此、此、此、此、此、此

別、別、別、別、別、別、別、別
揃、揃、揃、揃、揃、揃、揃、揃
三、三、三、三、三、三、三、三
何、何、何、何、何、何、何、何
仕、仕、仕、仕、仕、仕、仕、仕
候、候、候、候、候、候、候、候
取、取、取、取、取、取、取、取
志、志、志、志、志、志、志、志
大、大、大、大、大、大、大、大
而、而、而、而、而、而、而、而
二、二、二、二、二、二、二、二

六
文
言

去後也

一收ノ中原ノ密謀、密換スルヤ、終ニテ防カニ
カノメヲハスル信ノ漏レテ、巡査ヲ派シテ
番、島内ニテ、固クモ海邊ノ密謀、向キ
之ノキヤ、陸上ノ郵便モ、亦ナキト、遂モ直
行ニテ、防テ、自出入ノ者、ハハ、島内、各所、
ヲ、防トシ、自出入ノ者、ハハ、島内、各所、
セ、自出入ノ者、ハハ、島内、各所、
海邊ノ密謀、向キ、
固クモ海邊ノ密謀、向キ、
列ノ所、ハハ、島内、各所、
今村、孫ハ、島内、各所、
夕キトノ、越テ、
辭者、

政ニ及者、推挙セシ者、之ニ、故キ、ト、裁、未、可、ヨリ
欠、良ノ、達、多、ク、其、在、警、部、ヘ、未、用、命、事、ノ
二、西、郷、お、出、卷、ノ、傳、中、島、ヲ、ハ、何、モ、分、ス、ハ
キ、者、有、リ、タ、ル、事、西、郷、ヨリ、何、ニ、二、月、下、旬、
三、月、上、旬、マ、テ、ハ、大、校、ニ、達、ス、ヘ、ク、同、所、ヨリ、
ホ、ス、ル、モ、強、ク、後、決、テ、ハ、キ、ト、ノ、料、ニ、在、シ、
二、三、ノ、警、備、隊、ノ、居、ル、内、二、月、廿、一、日、頃、英、國、軍、
艦、東、港、ニ、マ、ル、節、又、日、麻、見、島、ヘ、軍、艦、差、向、シ、
ラ、ル、由、付、兼、ニ、機、舎、ハ、海、岸、近、キ、無、念、ニ、付、俄
ニ、報、應、團、ニ、内、へ、射、穿、ラ、建、築、シ、右、ヘ、移、シ、且、大、教、正
大、所、致、然、外、傳、信、亦、ハ、何、ホ、ノ、見、出、ニ、依、リ、私、学、校、免
ニ、テ、捕、詰、隊、ニ、モ、ノ、報、明、了、ル、迄、ハ、其、中、
以下ノ者ト、得、ニ、其、傳、入、機、隊、ノ、報、且、川、上、就、覽

此部 尾根 渡 五郎ノ三名 二月十三日 比丁
甲 船 乗組 一旦 砥海 迄 迄 尻 越 一 引
返 指 宿 御 指ノ 渡 十三日 ヲリ 揚 陸ノ 上 野
娃 御 ヲリ 相 野 渡 系 等 川上ハ 相 野 部ハ
解 系 四 隊 下ノ 者ナリ
一 書 面ヲ 以テ 西 御 奉 兵ノ 故ヲ 聞キ 歸 知セシ 存 尾 軍
政 迄 方 報 せシタル 物 然ルニ 告ニ 尾 軍ノ 志 既ナラハ 砥
ヲ 上 陸 スルカ 又ハ 直ニ 来ルヘキ 書ナルニ 書 状ヲ
以テ 申 越スハ 又ス 名ヲ 從 軍ニ 依リ 升ニ 為
ス 所アルニ 古 違ナシトノ 嫌疑 有之 由ニテ 相 野
等 出 卷ニ 陪ニ 第 四 隊マテ 右 書 面ヲ 交 付ニ 取
ル 方 申 来リタル 昔 一 等 部 右 松 祐 永
ヨリ 承リタル 末 三 日 計リテ 過キ 右 三 名 来 着
ノ 趣 因 人

申セタル 故 相 野 出ヨリ 来 言ノ 通リ 此 向スヘリ 且 右
損 不 害ノ 者 共ハ 当 部 柄 尋 方ノ 此 向ニテハ 白
状 スマシキニ 付 最 後 拷 鞠 可 致 旨 申 聞 於 同 頃
川 相 野 雄 田 尻 逆 肝 付 左 右ノ 三 名ハ 西 御 本
部 軍ニ 加リシ 者ニ 決 中 系 亦 所 持ノ 者 故 中
ニ 右 三 名ノ 名 列 者ニ 款ヲ 以テ 亮ヲ 除カレ 居タ
ル 折 柄 日 向ノ 方ヘ 立 越 成 由ニテ 學 助 探 出 仕 見
玉 源ニ 允ラ 以テ 通 行 印 鑑ヲ 取 出タル 故 右ハ
物 内ヲ 脱 出シ 自 然 西 御 出ノ 為メ 害ヲ 生シ 攻
テハ 幸 申 越 トリ 不 害 有之 工ヘ 取 引ヘキ 昔 右
部 へ 申 付タル 末 右ハ 不 害ノ 尺 也 幸ニ 解 放ノ 事
未 後 部 部 出 出 務 在 股 出ノ 以レ 事
右 中 務 拘 留 政ニ 事 事

一兵士才多清ハ元和學林党ノ既立者ニ其才多
故アリテ退校セリシ年終出兵ノ際民軍ノ系
西御へ中區タル物ナレバ西御ノ系知セカル由テ
二月十六日ト覺ヘ是れ自分ヨリ相成道周旋イ
タニ吳ヘキトノ依頼ニ名シ相野へ書面ヲ以テ
申老ニタル事ニ於西御へ指シ申入ルト是レ一切
申入サシ付キ事一已ノ決心ニ任セテ中トノ
区來来ん右該書面ヲ以テ申入ルト區來來ニ
此ノ書面後申入不該事

一三月三日書讀テ又歴詰古ホ新ア田中景輔
雨ヲ屬與々カ房ニ書讀ニタシ飲肥士族長官
某ノ才多事所平ナル者ヲ同色ニ来リ右書
ト依ニ面會セシ事ハ名曰西御出ノ旗尾ニ付

尺カセント京坂ノ方ニテ右馬場本ホト周旋セシ
一及後西御有るハ既ニ録セラシ自カハ漸ク宛向
セシ昔ヲ以テ書後地方ハ軍未夕手為付
日向ヨリ書後ニ掛ラハ大更ナラシト申入ル共
小倉ハ初面ハ子ノ者ニテ人物モ亦亦空身ニ難
計ニ付唯其場ノ挨拶ニ宜カルヘキ者能レ
大者タル事ハ日向地へ出兵ノ期ニ至ラハ小倉モ出
ルル昔ヲ以テ右カレハ在 柳西御ノ出兵スルニ私
學校党ニ限ル昔ヲ以テ承リ存妹ニ自カハ兵
事ニ関セサル心約ヲ付暮兵ハ亦終古學後路
ノ振合モ對地ハハカレキ事

一申入ル事一ハ其書讀ノ企テル報初メ承リタル事
以モ存ルカス近 閣ニ申入ル事ハ口以テ泥ニ實

事ト口内糠リ日暮迄右ノ者有二月三日ヨリ
六日迄捕縛之申ニ分署へ拘引之中後初
メ和子校堂ニテ尋クア中山行方河野村
飛吉川河野村内後尾乃榊山久兵衛
仁礼景通ホテ專ラ仇向ノ上右口付ハ西郷
ヨリ後有^一見信認スルヨリ同人ホ出^テ前^テ活板
ニ指立^ル物下ニ布直シタルト雖モ其後検^テ可^ク
引渡ニ修^シ右証物西郷へ受取トシテ木炭
為^テア其^レ本^レ迄^ル事^ニモ^テ其^レ一^ノ証物モ右証
カ、ルノコナラス申^ス事^ハ高^ク仇^ノ事^ハ和子校
ノ者^モ有^ル人数^ニテ^テ肆^ノ酷^ノ拷^ノ訊^ニ及^ビタル^事
勅使^ノ理^行ノ者^中ニ^於テ^テ速^リ追^テ其^レ考^スル
コ右^モ果^シ成^ラ以^テ口^供ヲ^作為^シタル^ハ全^ク

軍兵ノ名ヲ求^ルル^事為^ニ出^{タル}事^ト存^シ且^シ糧
食^等ノ儀^モ西郷ノ依頼^ニ應^ジ其^レ一^部申
付^ル強^ク内^ニテ^テ所^一禁^止出^場ヲ^設ケ^ル取^締
御^テ西郷^隆盛^ノ逆^意ヲ^贊以^テ致^シ之^般
深^ク奉^恐入^ル事^一
右^ノ通^事申^上ル^事以上
明治十年七月三日 大山 綱良 押印

河野幹事檢印

